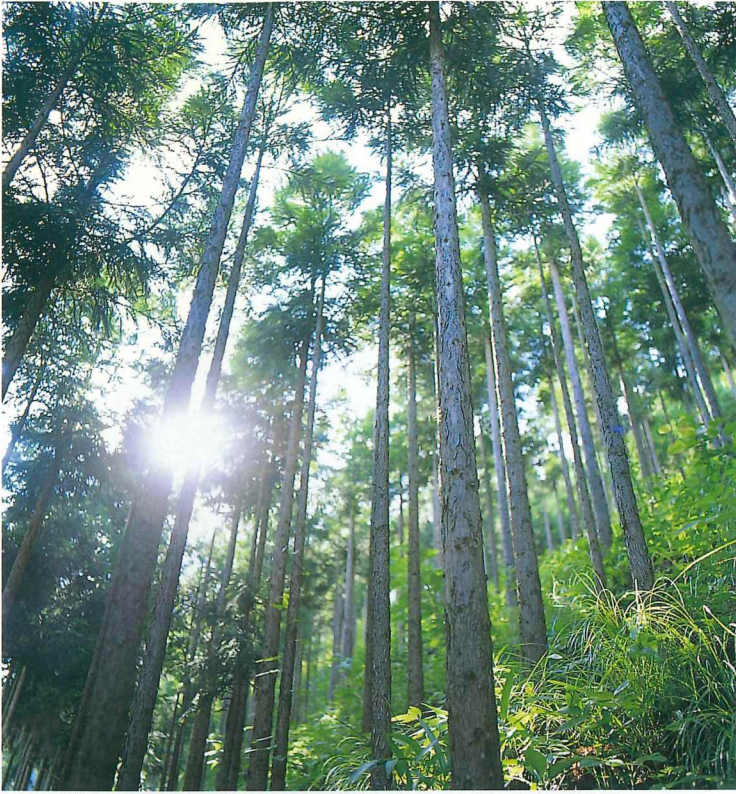


山を育てる



木漏れ日がもれ、さわやかな風が吹き抜ける讓尾さん所有の山。木々がまっすぐ伸びている。



ピカピカに磨き上げられたナタ。このようなナタを200本持っているという。切る木の種類によってナタも変える。

山に植林し、木を育てている人たちがいる。讓尾^{ゆずりお}一志さんは育林業の仕事にたずさわって20年。頼まれれば、どこの山へでも出かけていく枝打ちのプロ。また、これまで学んだすべてのことを実践すべく、自らの山で杉・ヒノキなどを植え、育てている。山に入って暮らしをたてている、現在数少なくなつた山の男である。

杉やヒノキの苗木を植える。但馬の山は急斜面が多い。もちろん、雪も降る。そういった条件をよくわかつて、植えなければならぬ。九州の木を持ってきて植えても、うまく育たないという。但馬には但馬の氣候風土にあった木を選ぶ。苗木を植

えた斜面の下側に、苗にそって杭を打つ。苗木よりも2〜3倍の高さがある。この杭によって活着力が増して、根が付きやすくなる。根元からまっすぐ伸び、曲がらない。つるの草が巻きついてきても大丈夫。弱い苗を守るなど、さまざまな効果があるという。

「なるべく小さいときに苗を山に植えるんです。若いときに植えるほど、その地の環境に適して成長するんです。でも、若い苗から育てていくという事は、弱いだけにむずかしい、手間もかかるんだ。」と讓尾さん。

初夏から夏にかけて下草を刈る。炎天下のもと、アカニカなどのハチの巣やマムシなどに気をつけながら刈っていく。

「たいていの人は、この暑さの中での作業がきつくて、音をあげますね。絶対、冷たい飲み物を口にはいけません。ものすごく体力が消耗するんです。」暑い中での作業は自己管理できる強い意志がいるそうだ。

植えてから7〜8年以上たつと、枝打ちが必要になつてくる。枝打ちとはいらぬ枝を切っていくこと。ピカピカに磨かれたナタがずらりと並ぶ。髪の毛が切れるくらいに研ぎあげられている。一本足のはしごを木にかけ、軽業師のごとく、タッタ

不思議な縁

ドラマ演出家 深町幸男

もう少し余裕があれば、『夢千代日記』のロケ地、湯村温泉に行きたい。私の兄貴分(朝野家会長)の朝野繁氏と逢いたい。

今、湯村の路地を冷気が通り過ぎ、町の中心を流れる春來川の流れに、赤く、黄色く染まった枯葉が一枚、一枚と舞い落ちていくことだろう。秋の到来を自然が告げているのだ。

秋、そして冬が…。自然には四季があり、また年が明け、春、夏、そして秋、冬へと…。人生も同じである。誕生があり、青春があり、社会で汗を流し働き、子どもをつくり、老いる。

現在もテレビドラマ、舞台劇の演出を続けているが、人生の冬の前半にさしかかった朝野氏と私は、互いに人生を一生懸命走り戦つてきた仲間である。尊敬できる“戦友”の一人である。

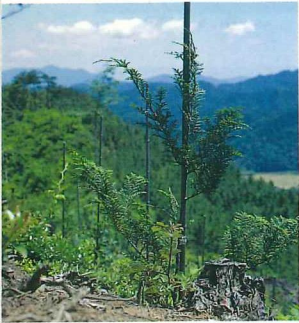
「人生楽しからずや。人生、始めあつて終わりあり」である。湯村温泉にやがて雪積もる頃、必ずや訪れたいものである。

— 朝野家社内報より抜粋 —



夢千代の里—湯村温泉
朝野家
TEL 0796(92)1000

苗木に添えて杭を立てる。まっすぐ伸びると願いを込めて立てていく。



炎天下の草刈り作業は重労働。急斜面の山を器用に刈っていく。

タツと木の上まで登っていく。地についているのはしごの足を軸にして、自由自在に動き回る。丸い木は360度どこにでも枝は出る。切りたい枝にきちんと刃が入られるようにするには、このはしごが便利だとか。

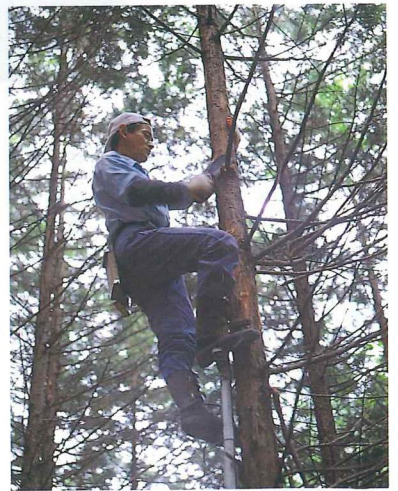
「枝にもそれぞれの性分があつて、切つたらあかん方向や枝があります。木の種類によつても違うし、その木を丸太にするのか、角材にするのかによつても違うんです。枝打ちひとつ失敗したら、これまで育ててきた苦勞が無駄になるから、いつも真剣勝負です。木たちは言葉が出ないんで、枝打ちを失敗しても「痛い！」とか言いませんけど、結果は確実に形となつて出てきます。ヤニが出たり腐つたりしてね。単純だからこそ、むずかしい。」

間引き(間伐)も大切なこと。よい木を残し、邪魔になる木を切つていく。太陽の光をまんべんなく入れてやらないと、木はまっすぐ伸びてはくれないし、年輪が中心に育つていかない。

木々は地熱(地面の熱)と光合成による影響を大きく受けて成長する。つまり、枝を打つ量や間引く木によ



一本足のはしごは持ち運びも便利で手放せない。スルスルと登って、みるみるうちに6~7メートル上の枝を切っていく。身の軽い動きはアクロバットを見ているようだ。



つて、木の成長を調整できるという。光を受けて光合成する葉が、どれくらい残っているかによつて成長する量がわかるのだそうだ。木を間引いたことによつて、どれくらい太陽の光が木や地面に当たるかも大切なこと。ここまで計算されて木は育てられている。

但馬には雪が降るから、そのことも考えなければいけない。しかし、木の成長を調整する技術があれば、高さに段差をつけて、木と木の間から雪を落とすことができる。雪の重みを全体に受け、折れる心配はない。また、上から下まで、木の太さをでき

るだけ同じにするのも技術だという。讓尾さんが所有する山に入ると、丹精込めてつくられている木々が並ぶ。まっすぐに伸びた木々が天を指し、間からは木漏れ日がこぼれ、心地よい風が通り抜ける。「手入れのできている山には、下草がきれいに育ち、小鳥たちもやつてくる。手入れをしてやらないと山は荒れてしまう。」

山を荒らさないためには、熱意、努力、研究、技術が必要。山々はたくさんの人々の力によつて守られている。

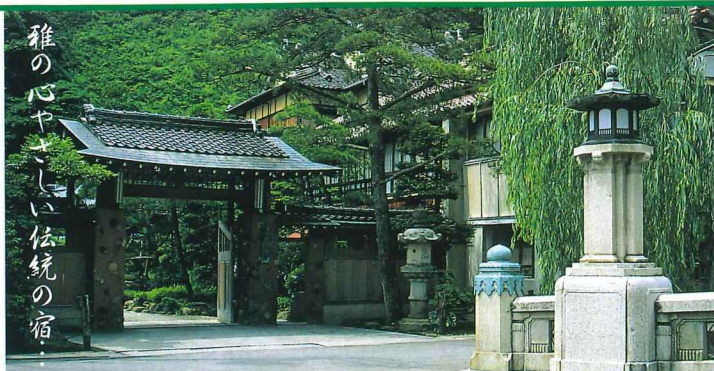


枝打ちを失敗してしまうと、このように腐ってきたりして、均等できない年輪ができない。外からはわからないが、切ってみると一目瞭然。



間引きも大切な仕事。チェーンソーの軽快な音が響いて、木が次々倒されていく。大切な他の木を傷つけないように、倒れる場所も考えながら切っていく。

城崎温泉
日本の宿 ゆとうや
〒669-61 兵庫県城崎郡城崎町湯島373
TEL0796(32)2121 FAX0796(32)2255



ゆとうや